

G3 のツイッター その3

烈剛河内 竹井 保満

5月23日我が家に某テレビ局が取材に来ました。

レポーターが来る前にスタッフが来て、私の所有するトレーニング用具を庭のあちこちに並べて帰りました。屋内で待つことしばし、インターホンが鳴った。

「テレビ局の者です」

びっくりした顔で出てゆくと、有名なレポーターがカメラ、スタッフ5・6人を引き連れて門の前に、スタッフが先ほど並べた用具をレポーターがこれは何ですかと聞くので、私が説明を始めるとディレクターが、大きなスケッチブックにマジックインキで書いてレポーターに指示を出します。

私もレポーターに合わせて従います。

筋肉を見たいというので皺だらけの筋肉も見せました。

ジムも見たいというので、ジムに出向き、基本のパワーの三種目を撮影、友人二人が協力してくれて、取材は無事終了しました。

以前にテレビ取材を幾度か受けたことがありますが、細かい打ち合わせや本人の意見も入ったように覚えています。

今回は、ディレクターが書く、スケッチブックの文字に踊らされた人形のように、放映される日が今から憂鬱です。

考えてみると、世の中には、このように何も考えず踊らされていることが多いのでは。

踊らされると言えば、命のない人形に生気を吹き込み、役者さん以上の表現でお芝居をさせる人形浄瑠璃ではないでしょうか。5月26日に引退をされた人間国宝の竹本住大夫さんは、何体もの登場する人形の喜怒哀楽を一人で語り、三味線、人形使いさんとで、心を打つ芝居を見せられました。八十九歳のお年でも遜色がなかったとの評判でした。

テレビ番組に踊らされる者、人形を躍らせて感動を得る人、痛く反省させられる5月下旬でした。

私は、元気だけが取り柄ですが、アンチエイジングの話をより多くの人に聞いていただき、少しでも実行して頂き、膨れ上がる老人の医療費節減に一役買えればと思っています。